

(第2回全国古民家再生協会懇談会) 議事録

記録日：2015年8月25日

記録者：河野 公宏、井上 隆太郎

団体名	一般社団法人全国古民家再生協会
開催日時	2015年8月25日（火） 10：00～12：30
開催場所	衆議院第二議員会館 地下第一会議室
出席者	<p>衆議院議員 (50音順) 井林辰憲 衆議院議員（静岡2区） 大隈和英 衆議院議員（大阪10区） 白石徹 衆議院議員（愛媛3区）、 中村喜四郎 衆議院議員（茨城7区） 中村裕之 衆議院議員（北海道4区） 山本朋広 衆議院議員（神奈川4区） 参議院議員 山本博司 参議院議員（比例代表） 三木亨 参議院議員（徳島） 議員代理 富田茂之 衆議院議員（千葉） メンバーアイテム : 江崎(北海道)、大室(青森)、本多(山形)、藤木(宮城)、山中(茨城)、 鈴木・伊藤(栃木)、杉本(東京)、竹内・金子和、金子哲(神奈川) 橋本(千葉) 戸田・都築(愛知)、大下・大前・井上(岐阜)、富田・三ツ井(静岡)、松田・西 島(福井) 加藤・笹川(富山)、堤(三重) 長井(大阪)、奥田(京都)、大森(滋 賀)、後藤(岡山) 貴船(広島)、金原、久保(徳島)、河野(愛媛) 井上、加藤、 山口、川口、山口昇(福岡) 小生(佐賀)、福田(長崎)、鳥越、中川、久下(大 分)、坂口(宮崎)、長堂(沖縄) 事務局 : 井上、川上 関連 : 林野庁、厚生労働省、ロングステイ財団</p>
議事	<p>1, 開会宣言 2, 理事長挨拶 理事長 園田 正文 3, 懇談会</p> <p>井林議員 : 財政行き詰まり、社会保証の充実が過度になっている。近隣住民との交流というセーフティネットワークの見直しが必要。 不便でも近隣住民と助け合う文化は、古民家ならではの文化である。近年住居の作りが変わってきた。 例 : 古民家ならではの大広間→家族の団らんの場所=家族が助け合える。 古民家の可能性を見出す事が必要。 我々の仕事=不便(古民家)の中にある可能性を見出す事。</p> <p>沖縄第一支部(長堂) : 文化の大切さを感じた。沖縄には古民家が残っているが、改装が必要。しかし、設計士は壊して立て直す事を勧める。素人</p>

(家主)はこの言葉を信じる。プロフェッショナル(古民家鑑定士ならびに伝統再築士)が古民家を残す為のプログラムを作つて共生を狙うカリキュラムを作る為の手助けを議員さんにしてもらいたい。

広島第一支部(貴船)：文化を守ることが重要。古民家鑑定士は家が建つてからの物語を継承する手助けが出来る。古民家鑑定士を世に広める為に議員の力添えが欲しい。

井林議員：古民家に住んだ人の感想をもっと発信する事で知らない人にも情報が入る。知らない人に取つて古民家は不便でマイナスのイメージばかり浮かぶ。フィードバックが大事になってくる。

井上事務局長：我々には、ジャパトラという冊子があり、ジャパトラ各支部で情報を集め、更に配布数を増やすことが重要。

中村(喜四郎)議員：日本の文化を残すには「住まい・個」を基本としての教育に在り方を考えていく必要がある。「古民家」を通して学ぶ仕組みを必要に考えていきたい

山中(茨城)：地元の古賀には多くの古民家が残されているが、古民家は耐震などの基準が難しく、現在の在来工法に直すケースが多くなる。私たちは「早稲田大学の毎熊先生の動的耐震診断」「滋賀大学高田先生の面格子パネル」という手法を用いて安全と安心の耐震確保をしたいと思っている。推進にアドバイスがあればお願ひしたい。

中村：しっかりと事例をつくり推進していくことが肝要。

大隈議員：地元の島本町にも多くの古民家がある。店舗・旅館での活用は進んでいるが、住宅として推進することが地域活性化に繋がると思う。皆さんの活動に期待をしている。

長井(大阪)：大工さん・左官さんなどが居なくなると、日本の住文化の継承が難しくなる。お寺や神社、文化財ではなく、一般の住宅でその推進こそが「地方創生」になると思っている。

大隈：「地方創生」はハードだけでなくソフトが重要なので、私自身皆さんとの活動をしっかりと勉強して国政に反映させていきたい。

山本博司議員：井上事務局長より日頃より古民家再生・流通についての話しさ聞いている。交通行政を担当し、主に中四国をカバーしている。地方創生を重要視し、各地域でどのようにして生き残っていくのか。古民家を活用することで、地方創生を狙う事が大切で、大工育成、研修が必須となってくるので、各地の協会が支援しなければならない。

省エネ住宅法案、省エネポイントが議会を通つたが、古民家は対象外。安全性の部分で特に耐震面で対象となる活動を進めなければならない。住育(住学)は大切で子どもの頃から取り組む事は良いことで、委員会・党としても耐震診断など視察できればと思う。応援したい。

東京第一支部(杉本)：現在、私が実施している早稲田式動的耐震性能診断は、古民家に適した耐震診断であり、伝統構法は揺れることで地震力を

減衰している。現行法では、机上の計算しか出来ず、効果が判断出来ず、大工の技術には先人の想いが詰まっている。既存不適格住宅として壊されていた古民家も早稲田式動的耐震性能診断であれば、耐震性が計測が可能。

青森第一支部（大室）：既存不適格住宅の古民家は、壊されることが主流であり、移築や再築にもハードルが高い現状がある。行政側にも古民家鑑定を活用することで、我々を有効的に使って頂きたい。

山本博司議員：ハードルは高いが、国土交通省を含め粘り強く取り組みたいと考える。

中村裕之議員：地元小樽にも古い建物が多く残っている。石造りの家なども沢山あり、これを残したい、活用したいという運動がある。例えば、古民家を買い取った女性が、古民家にあった石蔵を清掃する事で訪問者が増えた。現行の不動産金融査定は安値で、古民家は価値がないとされています。中古の住宅の査定を見直す。古民家は付加価値が高く、査定項目の見直しが重要になってくる。

北海道第一支部（江崎）：例えば開拓の村は、古民家を移築し展示している。劣化が進んでいるが修繕費用は無い。重教育に必要な施設であり、修繕費が欲しい。

中村裕之議員：ドラマ「まっさん」にも使われていた。是非、尽力したい。

福岡第一支部（川口）：中国、韓国、ヨーロッパの人々の観光目的は、1、温泉 2、買い物 3、町並み・文化。二回目の訪日以降は文化を見に来れる人が多い。海外に発信することで国民化が再認識する。

中村裕之議員：例えば、日本座敷。仕切りは襖や障子で使用用途に合わせて広さを変えることが可能で、風通しなども変える事が可能。これが、日本の文化。

滋賀第一支部（大森）：私は大工歴43年。振り返った際、周りに職人がおらず、大工を育てたい。伝統建築を続けていきましょう。

中村裕之議員：自民党の議連には左官の議連もある。職人毎にある。昔は手に職をつけろと言われたが、現在の大人は言わない。手に職があれば大丈夫という保証がない時代になってしまった。技術の伝承は大事であり、技術職の方に対する労働単価を上げる事がデフレ脱却に繋がり、そういう環境作りに尽力していく。

山本博司議員：先日、香川県にて職人の方と懇談会をおこなった。ゼネコンへと給与は送られているが、末端の技術者には、きちんと届いていない。労働単価を上げる事も含めて若い人が働く環境を作っていく。

井上事務局長：大工の労働費用は内装屋より低い。技術を付けるほど儲

からない。

山本朋広議員：前回も参加させて頂き私が住んでいる鎌倉には空き家が多い。対策が必要だと考えている。もともと生まれは京都。京都にも町家と呼ばれる古民家が多く残る。再利用して商いをしている人が多い。例えば、以前料亭だった和食屋。欄間などが残っているが、土足であがれ、テーブルで和食を食べる。洋風の良いところを使いつつ古民家の味も残している。古民家は負の遺産と呼ばれたが、これを活用する事で、大きな財産となる。皆さんと力を合わせれば出来る。

京都第一支部（奥田）：京都も空き家が増え、町家を再利用している。断熱材を用いて建て直す。今は良いが、次の世代が直す時に直せない直し方で行われている。今後、大工の育成が大事になってくる。全国的には古民家と呼ばれる事が多いが、京都の町家だけでなく、富山や岐阜の様に地域性のある住まいに付いても教育が必要。

神奈川第一支部（竹内）：古民家の活用、再生は地域活性化に繋がる。既存不適格住宅として古民家は、現工法からはずれているだけで価値無い。古民家全てが良い訳ではないが、現状を知る為に早稲田式動的耐震診断で安全性を確認し、使えるかどうかを見る事が必要。その為の基準が必要。昔から建築の教育では伝統構法については触れて来なかつた。よって知識も古いものには価値がないと思われている。しかし歴史は良いものは良いと物語っており、文化を引き継ぐ事が大事。この為の基準を公に認めてもらう事で空き家問題にメスを入れる。オリンピックに向け鎌倉も変わる。現在でも鎌倉にホテルはあるが外人は浅草等に戻ってしまう。

学童保育に古民家を使いたいが、現法ではグレーゾーン。我々の仕事を認めもらいたい。

井上事務局長：早稲田式動的耐震診断を認めて貰いたい。古民家鑑定士も8年かけて一万名弱になった。市場創造には時間はかかる。

福井第一支部（松田）：日本人が文化を守るためにどうしたいか。人は月にいきたいと強く思う事で実現した。守る為に努力する事が大事。

愛知第一支部（戸田）：古民家は現行の耐震診断で判断すると安全・安心が無い。行政はこれだけで判断し、素人（消費者）は信じています。マイナスに動いえている
早稲田式動的耐震性能診断は、測定自体が5分～10分程度で終わり、古民家に関しても正確に診断が可能。しかし、行政は認めてくれない。

山本朋広議員：早稲田式動的耐震性能診断を国交省がどう捉えているのかを私が聞いてくる。また皆様に結果をお伝えする。

井上事務局長：リフォームに対する耐震診断は現行法ではない。早稲田式動的耐震診断を取り入れ、住宅保証機構から瑕疵保険を使えるようにしたい。

住宅保証機構（芝）：既存保険でもリフォームの保険をかけられるよう、現在交渉中。早稲田式動的耐震性能診断の公的判断→難しい瑕疵保険なら保険提供側で判断できるようにして欲しいと打診。基準値が1以上なら瑕疵保険が適用できるように認めてもらいたい。

白石とおる議員：古民家再生は新しい産業領域への進出。文化を守る事は必要。太鼓一つ作るのに百数年かかる。政治面でも支えていきたい。

井上事務局長：議連の立ち上げ、大工の育成をお願いしたい。

山形第一支部（本多）：古民家事業で家主と話す事がある。多くの人から子どもにも残したいと相談を受け、アドバイスしたり、大工の育成の必要性を感じる。文化を残す事が誇りになると伝えている。家主の思いを形に出来るよう議連の立ち上げや支援をよろしくお願ひしたい。

徳島第一支部（金原）：四国四県は全国の空き家率トップ8に全て入っている。長野、山梨などは別荘も勘定している為、実質四国四県はほぼトップ。古民家を再生し、住んだり、店を開いたり、宿泊施設へと変えていくことが重要。外人が見たいのは都市よりも文化を感じるところ。お遍路さんも増えている。古民家活用が重要。改修し宿泊施設にしたり、BNBのようなサービスも必要。利用の仕方を考えた時、法のグレーゾーンが多い。この緩和を議論してもらいたい。

白石徹議員：オリンピックに向け旅館業法の緩和を検討中。これに合わせて古民家利用も議題に上げる。議連が有効になってくる。

自身も大工の息子、「大工は木組みじゃない、人の心組みをする」。こういう心や先人の知恵を後世に伝えていく事も大切。再生だけでなく更なる広がりを。この動きを加速させて欲しい。

山本博司議員：訪日外国人の地方訪問が増えている。

例えば、鳥取の料亭。外国人訪問者4倍へ増加。地方創世の柱になる。今年の1月～7月で1105万人が訪日。ゴールデンルートだけでなく地方に来てもらう。ビザの緩和により免税店も増加している。世界的に増加しているシェアハウス、日本ではいまいち。古民家活用で出来る事が増える。耐震基準や安全性で行政との間に壁がある。

岐阜第一支部（大下）：古民家を残す上で行政との壁がある。大工も減った。古民家再生が難しい。二代目大工も減った。その原因として金銭面や伝え方の問題。今すぐ動くべき。

井上事務局長：ハンドプレカット工場増やしていく事が急務である。大工育成に対して厚生労働省と何かできるのでは？

白石徹議員：育成学校あったが現在休校中。育成も大事だが、大工になりたい人を探す、増やすのも大事。仕事を作る事で人を掘り起こす。宮大工は忙しい。後進育成も出来ており、仕事もある。技術のすごさ、大切さを伝える事でやりたいと思わせる。裾野を広げることも大切で、古民家の木材を家具へ転用。他産業への可能性も見出すべき。

ロングステイ財団（佐藤）：配布資料参照

宮崎第一支部（坂口）：空き家を活用したい。古民家に住む人もいるが、多くの人はその活用法を知らない。誰でも分かる窓口が必要。そういった活動をしたい。

栃木第二支部（伊藤）：日光というネームバリューがあり、観光客多いが、有名な場所を見るだけ。他にも良いところがある。古民家とか。滞在期間を長くしたいが、宿が少ない。日帰りや1、2泊の観光が多い。古民家を利用して長期滞在できる体制を作りたい。また活用のアドバイスもしていきたい。

井上事務局長：古材の活用は、日本の木材活用の促進をおこなっていく。国産材のプレカットは手間がかかるから、外国産材が増える現状もある。

宮城第一支部（藤木）：再築基準の三つの柱を確立する。自分の代で壊したくないという思いをどう残すか。再生するには、リフォームや移築をきちんと行い古材を流通させ、残していく。この為に大工、技術者の育成が必要。日本の森林は荒れている。こういったところにも着目し、森から育てる、守っていくのも大事。

福岡第一支部（山口）：解体時に取れた古材を使う、古民家となれる家を建てる。日本の森は伐採期にあり、これらを活用する努力をしたい。

井上事務局長：大工の育成を行いたい。支援をお願いしたい。

白石徹議員：若い人に大工の魅力が伝わっていない。様々な施策を行うつもり。

三木亨議員：私は、中古住宅流通議連に所属しており、2020年に控える東京オリンピック、パラリンピックも視野に、古民家再生を促す。

井上事務局長：古民家イコール壊すべきという考え方から残すべきという考えに変わってきた。

三重第一支部（堤）：我々がどういった行動をすれば、古民家の流通を行政に訴えられる？

三木亨議員：住宅の履歴を透明化すること。自分の住居の過去を知りたがる人が多い。これを半公的に担保していく動きもある。人が住んでいないと家は死ぬ。古民家にどのような価値をつけるか。修復に値する価値をつける事で古民家の評価を変える、価値を高めていく。

	<p>井上事務局長：安心安全を担保しないと次に進めない。</p> <p>徳島第一支部（金原）：民泊を国はどういった方向で進めていくのか。阿波踊りのようなイベント時は瞬間的な宿泊施設不足が起こる。築147年の古民家。現住者あり。今の耐震基準だと危ないと診断され、改築を希望。その前に調べて欲しいと依頼。こういった家庭が多い。</p> <p>三木亭議員：場所がない、宿泊費用が高い、観光施設が少ない。それが起因して宿泊者が少ない。旅行業法等の縛りもある。これに対する投資も無駄が多い。規制緩和で民泊をしやすくしていく。古民家に関しては確立された耐震基準がない。これを確立させるためにも研究に力を入れていきたい。現状でも部分耐震といったやり方も出来る。</p> <p>千葉第一支部（橋本）：古民家需要はあるがまだ少なく、解体される事が多い。継承が上手くいっていない。先代を恨んでいる人もいる。指定文化財として指定される枠を広げる事で、古民家を文化財として保存し古民家の認知度を上げる。</p> <p>三木亭議員：市の文化財となれば一部修繕費用ができる。統一された基準を作れば不可能ではない。古民家を欲しい人の為に移築する→新しいビジネスのにおい。</p> <p>林野庁（服部）：戦後植林された日本の森林は利用期を迎えており。住宅需要は減っているが、木材を利用してもらう様大工の育成、利用目的の提示をしたい。建材に価値が付く様努力したい。</p> <p>厚生労働省（藤井）：人材育成が必要。大工の人材育成に対して厚生労働省として何が出来るのか検討し、提案してもらいたい。</p> <p>住宅保証機構（芝）：先日、早稲田式動的耐震診断の実験を見学をおこなった。この診断法の受け入れを進めていきたい。</p> <p>ロングステイ財団（佐藤）：瀬戸内町では空き家の貸し出しを町が紹介している。このような動きを広げていきたい。</p> <p>4, その他 5, 閉会宣言 副理事長 鳥越 宣宏</p>
決定事項	・来年2月に向け古民家議員連盟（仮称）の立ち上げを目指す。
次回開催日時	2016年8月開催予定
次回開催場所	衆議院議員会館もしくは永田町界隈